



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

11月の出来事

帝京大学小学校 校長 石井卓之

先日、日本ラグビーフットボール協会副会長である清宮克幸さんの講演を拝聴しました。清宮克幸さんは、帝京大学のライバルでもある早稲田大学ラグビー部の元監督で、また、北海道日本ハムファイターズの清宮幸太郎選手は息子さんです。

演題は「明日を担うリーダーを育てるために～勝てる組織、勝てるリーダーの作り方～」でした。その中で特に大切にしていたこととして3点をあげていました。

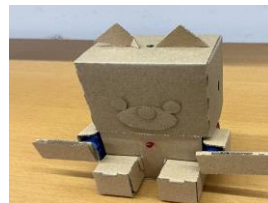
- ① 熱～そこに熱はあるか
- ② 言葉～強い言葉、大事にする言葉
- ③ オリジナリティ～俺たちしかやらない、独創性

チームをつくり上げるためには、強い言葉、大事にする言葉を明確に示し（部室に掲げる）、それに向かってメンバーが突き進めると、勝てるチームが生まれるということでした。清宮さんはその言葉として「ALIVE（アライブ）」を示したということでした。日本語訳では、「生きている、活気がある」となりますが、もっと情熱的な雰囲気を含んだ言葉だと、講演を聴きながら感じました。それが①の「熱」と関わることだと思います。

③のオリジナリティについては、低迷していたヤマハ発動機ジュピロの監督時代のことを語られました。チームを勝たせるためには、今まで日本にないスクラムを作ることが必要だと考え、フランスに選手の代表を遠征させて学ばせ、その新たなるスクラムを武器にリーグトップとなったそうです。

講演を聴きながら、私が考えている学校経営に似ていることを実感していました。「チーム帝京小としてのパッション、例年踏襲は衰退、脱平均」は清宮氏と同じ方向性だと考えています。色々な方と出会い、外から学ぶことの重要性を感じた1日でした。

11月10日、住友生命保険相互会社の健康教育に関連して、段ボールを組み立てるe-Craftのプログラミング教材、embot（エムボット）を1年生が体験しました。iPadで簡単な命令を入力すると手を動かしたり、ランプが光ったりします。また、ひらがなを入力するとその言葉がiPadのスピーカーから出力されるなど、大盛り上がりでした。1年生はこの日初めてキーボードから平仮名入力をしましたが、言葉を話させたいという明確な目的意識があるので、どの子も短時間で上達しました。



職員室の窓



《図工科教諭 村上弘美》

1階オープンスペースでは、劇のセリフや歌が聞こえてくるようになり、学芸会に向けて練習にも熱が入り始めました。1年生は図工の授業で、衣装として使用するキャストごとの動物の帽子を作りました。制作中も嬉しそうにかぶりながら、それぞれの表情を工夫して作る姿が見られました。キュリオシティホールでの舞台で練習の成果を発揮し、堂々と発表できると良いと思います。